介護・福祉

第10回

中国が注目する日本のサービス

福祉政策が明確に 提携先、状況見極めて

上海の交通網はここ5年で一気に発達し、現在は13号線まで出来ました。

地下鉄はいつも大混雑で、乗り切れない乗客を下ろすため扉を強引に開け閉めして挟み、車外に締め出す。カバンや服が挟まったまま発車する光景もよく見られます。また停車位置から数メーターオーバーランして電車バックする事も日常茶飯事です。このような現象を誰も咎めようとする気配もありません。

上海に来て1年半が経ちますがまだまだ新鮮な出来事が多い世界です。

さて去年10月、上海で第1回上海国際老齢産業会を実施し、これからますます需要が伸びる高齢者市場開拓に向けた技術や商品、ノウハウ提供のアプローチを弊社主催で各日本企業に協力いただきながら行いました。

あれから上海で、老人ホームを建設する企業との提携や訪問介護会社立上げなど数多くの案件依頼がありました。

2050年には 60歳以上の高齢者が人口の3割を占めると言われ、日本をしのぐスピードで高齢化が進む中国。上海でも、2010年末には上海の戸籍を持つ人口1412万人に対して、60歳以上が前年比15万人増の331万人を占めるようになりました。いよいよ本格的な高齢化社会に突入しようとしています。

中国では日本式の介護システムが求められており、1人っ子政策で親の面倒を見きれない世代に、優れた日本の高齢者サービスは必ず受け入れられます。

待ったなしの高齢化政策も、日本と同様で「9073服務計画」があり、そこには90%は在宅ケア、7%は民間の老人ホーム、3%は政府公認の老人ホームでケアを行うことが目指されています。ほとんどが在宅ケアのため訪問介護、デイサービスなどの分野もこれから大きく伸びる市場でしょう。

この中国で1番に物事を起こす事は非常に大事なことですが必ずリスクも伴います。ここ1～2年は中国の福祉政策や状況分析を行い、一気に攻め入るチャンスが必ず来るはずです。その時期までに中国企業のよいパートナー探しも重要です。

今回は日本の高齢者市場をより深く理解していただくために今年5月に上海シニア事業者30数名を集め、「高齢者住宅フェアin東京」の見学や荒井商店に協力していただいて高級有料老人ホーム「コンフォートガーデンあざみ野」、「アライブ世田谷中町」視察、社会福祉法人アルペン会リハビリ病院視察や、観光を盛り込んだ日本シニア産業視察ツアーを企画いたしました。

中国ではリハビリに対する意識は高いですが未知数な分野なため、日本のリハビリ技術導入に非常に熱心です。介護保険や医療保険も十分でないため、高所得者層をターゲットにした高級老人ホーム市場が当面の間はメインターゲットと考えられますので日本の高級老人ホーム視察の希望も数多くありました。

最終日には「高齢者住宅フェアin東京」の見学と日本の商品、技術、ノウハウをもった企業とマッチングを考えており、中国進出に興味のある日本企業との懇親会も開催する予定です。

来るビックチャンスのためにぜひ、中国市場進出を検討しませんか。

中国企業と日本企業の交流会開催

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

ゲストハウス社長 松山英樹

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボーンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

24時間訪問軸に地域ケア 札幌で

ノテ福祉会 近年中に首都圏進出も

今年度から始まった介護保険新サービスが各地で動き出している。社会福祉法人ノテ福祉会（北海道札幌市）は今年度からスタートした定期巡回・随時対応型訪問介護看護（以下・24時間サービス）を今月よりスタートさせた。近年は札幌市内で24時間サービスを中心とした地域包括ケア体制の構築に取り組み、近年中には首都圏に進出する。対馬徳昭理事長に話を聞いた。

対馬徳昭 理事長

通報時の情報量 自立支援の鍵に

――24時間サービスをモデル事業時から行っています。

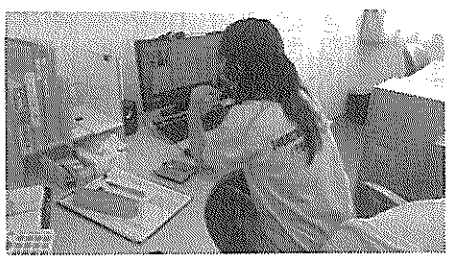
「札幌市の隣接した2区(豊平区、清田区)でのモデル事業では15名にサービス提供し、検証してきました。もともと当法人では助成金などを活用しながら、平成6年に24時間サービスの原型となるヘルパーの定期巡回・随時対応を行ってきました。そこで得た反省材料を、今回の制度開始に合わせて改善しています」

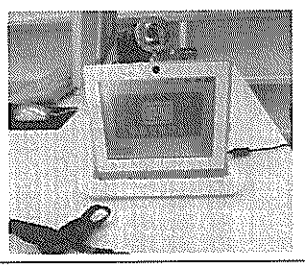
――以前のモデル事業で出た課題とは。

「当時は緊急コールがなく、代わりにポケットベルを使用していました。コールが鳴るだけでどのような状況なのかわからないため、ヘルパーはコールの度に利用者宅へ訪問しなければなりませんでした。自力で出来ることも頼んでしまうケースなども多く、逆にヘルパーへの依存度を高めてしまうという課題が見えてきました。現在はテレビ電話型のコールを導入。訪問せずとも対話で解決出来る部分も多くあるのです」

――24時間サービスでのポイントは。

「コールを受けるオペレーターの判断力が重要です。コール時により多くの状況がわかれば、それだけ判断材料が増えて訪問すべきか対話で解決出来るのか適切な判断が出来ます。また、当法人ではコールが鳴ると、オペレーターの画面に発信利用者の基礎情報や最近の身体状況などが発信番号で読み取って表示されるように、通信メーカーとシステムを開発しました。コール時の利用者情報把握のための仕組みとテレビモニターは、このサービスには必須だと思います」





◀オペレーションセンターの様子（上）とタッチパネル式の通報装置（下）

サテライトを2年で7拠点

――現在、札幌市内でサテライト拠点を増設させ、地域包括ケア体制を構築しています。その中での24時間サービスの役割は。

「法人では豊平区と清田区の2区で、特養や老健、在宅介護、有料老人ホームなど幅広く展開しています。現在注力しているのは、人口約2万人のエリアに小規模多機能やグループホーム、居宅介護支援事業所などいくつかの事業所を組み合わせたサテライト施設の開発で、現在2区で8拠点ありますが、来年度には15拠点にする予定です。この中心となるエリアに24時間サービス拠点を設け、2区の利用者をカバー出来るようにしています。24時間サービスは身体介助メインの利用者には非常に有効ですが、認知症の人にはマッチしません。そのため小規模多機能の開設にも注力し、認知症の人も地域で支えられる仕組みを作ります」

――札幌市で地域包括ケア体制を構築した後の計画は。

「2年間で札幌市のサテライト拠点を充足させ、同時並行で首都圏への展開を考えています。法人としては札幌以外での展開は初めてですが、札幌のこのモデルは全国でも有効だと考えていますので、大都市で地域包括ケア体制を一から作ります。現在、法人で35のサービス拠点を持っていますが、2年間で80拠点まで拡大します。サービス付き高齢者向け住宅も検証中ですが、10棟程度手掛けていきたいと考えています」

主催 一般社団法人高齢者在宅医療介護事業者協会

時代を先取り!! 次世代介護最新情報!!

5月17日(木)
TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター
1階カンファレンスルーム1D
東京都中央区京橋2-3-19TKP八重洲ビル
13:30～16:30（受付13:00～）

会員無料
2名様目より
1,000円
一般
5,000円

定員
50名
定員になり次第
受付終了

Ⅰ 法改正をふまえた宿泊付きデイサービスの今後について
■講師：株式会社日本介護福祉グループ 代表取締役 小柳壮輔氏
専門学校卒業後、特別養護老人ホーム入職、その後高齢者の住まい確保に尽力すべく不動産会社へ就職後高齢者の住まいと介護をコンセプトに持つ企業へ転身、そこで特定施設（有料老人ホーム）のマネージャー業務を学び、自身での独立を意識し、日本介護福祉グループへ入社。現在に至る。

Ⅱ UR団地のサ高住と介護ビジネスについて
■講師：株式会社URリンケージ 主幹 山岡 靖氏
株式会社URリンケージ企画設計部次長、UR団地の再生・活性化に向けた調査研究に従事、ハードの整備とソフトサービスの展開を検討中。

お申し込み お問い合せは（担当:事務局／中村）
http://www.kouzaikyou.or.jp
E-mail info@kouzaikyou.or.jp
TEL.052-533-0780

支え合えはみんなが幸せに なれるチーム在宅という考え方 チーム在宅
一般社団法人 高齢者在宅医療介護事業者協会
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-11-22 IT名駅ビル1階 TEL 052-533-0780